

暦のお話

日本は古くから月の運行を基軸にした暦を用いて農作業や建物の建築、行事の日取りなど日常のあれこれを決める目安にしていました。

『太陰暦』や『陰暦』と呼ばれています。

江戸時代が終わり、外国に日本を開くにあたり太陽の運行を基にした西洋のカレンダーを取り入れた結果、日本との間に約一月半のズレが生じることになりました。キリストの生誕を起点とし太陽の動きを取り入れた西洋の暦を『新暦』と呼び現在の日本の標準的なカレンダーとなっていますが、もともとある日本独自の文化行事に当てはめるとどうしても少し時期が速足になってしまうのはそのためです。

例を挙げれば、ひな祭りの時期に桃がまだ蕾だったり、七夕の時期に梅雨の真ん中でなかなか天の川を見られなかったり、『どうしてかな?』と思われたことはありませんか?

人生儀礼や五節供などの年中行事、家庭菜園作りは自然や気候と密接にリンクしています。2つもカレンダーを持っているなんてユニークです。

最近は手帳やカレンダーに旧暦を併記したのも出回っていますので日々の暮らしに取り入れてみられてはいかがでしょうか。

栗津天満神社

加古川戎神社